

平成 2 7 年

第 1 回 臨時市議会

所 信 表 明

阿 久 根 市



# 所 信 表 明

市民の皆様のご期待と希望の思いに支えられ、ここに立たせていただいてから4年の歳月が流れました。

この間、阿久根市は、「対立」から「対話」へ、「混乱」から「安定」へ、一步一步、着実に歩みを進めてきました。

全国の喧騒を一手に集めたような市政の混乱は、今や終焉を迎え、私は、昨年12月21日に行われた阿久根市長選挙において、市民の皆様方から温かい御支援と御支持を賜り、再び、第19代阿久根市長として、ここに立たせていただいております。

市民の皆様方の市政への信託を、改めて厳粛に受け止めながら、市政のかじ取りを再び担う責務を重く感じつつ、平成27年第1回阿久根市議会臨時会の開会に当たり、市政に対する所信を申し述べさせていただきます。

4年前の市長就任当初、私は多くの市政の難題に対し、熟慮する暇いとまもないまま、また、時には十分な判断材料も得られないまま、早急な決断を迫られておりました。大きな戸惑いと不安の念に苛さいなまれながらも、暗夜あんやの中「只だ一燈たを頼め」との思いで、己の信義に従い、激務に当たる日々が続いておりました。

しかし、どんな状況にあらうとも、私には常に心がけてきたことがありました。それは、何よりもまず、市民の融和を最優先に考え行動するというものでありました。混乱が収束した後、市民が互いに協力しあえる状況がなければ、このまちに未来は無いと確信していたからです。円滑な市政運営にとって「市民融和」は絶対に不可欠な条件であり、このことは一期目を通しての私の大きな行動指針でもありました。

市民100人委員会を手始めに、市長と語る会を積極的に開催し、また各種会合へも、規模の大小を問わず、時間の許す限り赴き、これからの阿久根市について、市民の皆様の多様な意見や考えを伺ってまいりました。互いに膝を突き合わせ、率直に将来の「夢」を語り合えば、多くの場合、まちづくりについて共通の理解が得られ、それまで断たれていた絆を再びつなぐことができました。

効果が見える事業施策の推進と併せ、見えない心の絆をつなぎ合わす対話を根気強く繰り返すことで、徐々に連帯の気持ちが生え、皆が一緒になってこのまちを活気づけようとする機運が広がりました。将来への「希望の<sup>あかり</sup>灯」が<sup>とも</sup>点った瞬間でありました。

振り返れば、私はこの4年間、この微かに<sup>とも</sup>点った「希望の<sup>あかり</sup>灯」をさらに大きく、明るく広げるために、全力で駆け抜

けてきたように思います。

御承知のように、今、我が国を含め、国際社会は激動の渦の中にあり、世界の政治、経済情勢は日々混迷の度を増すばかりであります。超高度情報化社会は世界の時間的距離を縮め、ニュースは全世界を瞬時に駆け巡り、地域経済も世界の動きに大きく左右される時代となりました。

また、地方においては少子高齢化や人口減少問題への対応が焦眉の課題となり、福祉、雇用、環境、教育等々各分野の問題も加わり、本市を取り巻く状況は一層厳しさを増してきております。

私は、このように課題が山積し、将来の見通せない不確実な時代であればこそ、市民の皆様のご知恵と創造力の結集が必要と考えます。氾濫する情報の中から真に必要なものを見極め、まちづくりへの揺るぎない確信の下に、皆が集い、斬新なアイデアを出し合い、政策を組み立て、皆で実行していくことで、次への新たな道が拓けるものと考えます。そのためにも議会並びに市民の皆様方の御理解をいただき、市政運営に対する御指導と御協力をお願い申し上げる次第であります。

さて、私は今回の選挙を通して、市民の皆様に対し、次の3つのキーワードを基に、これから取り組む施策の重点方針を訴えてまいりました。

一つ目のキーワードは「つながる」であります。

これからのまちづくりには、市民の皆様との協働が不可欠であります。地域活性化の取組においては、住民の皆様の積極的な参加と行動が求められます。国が推進する「地方創生」の中でも、地域の特性を生かした取組を、地域住民と共に主体的に実施することが求められております。また、安心・安全なまちづくりへ向けて、自然災害をはじめとした緊急事態においては、共助の精神に基づく隣近所の連携や地域の総合力が重要となってまいります。

このことから、私は、地域コミュニティの重要性を再認識し、その強化と連携に取り組み、子供から高齢者、障がい者を含めた全市民があらゆる場面であらゆるつながり、皆が「笑顔」で暮らせるまちづくりを進めます。

また、市民所得の向上を目指し、農林水産業、観光、商工業に携わる人たちが、その枠を超えて互いに連携を深め、新たな挑戦や取組を通して、まちに「にぎわい」を創出する環境づくりを進めます。そして、本市を訪れる方々を増やし、地域経済の活性化と雇用の拡大へと結びつけ、若者の本市への定住促進にもつなげていきたいと考えております。

さらに、本市への流入人口を増やすためのインフラ整備として、南九州西回り自動車道をはじめ北薩横断道路の整備促

進への取組を強化してまいります。

二つ目のキーワードは「育む」です。

豊かな自然に囲まれ、気候温暖なこのまちは、人々の健やかな暮らしに適した地であります。また、海の幸、山の幸をはじめとした本市の豊かな産物は、非常に貴重で他に誇ることのできるものであります。ここに暮らす人々が、今後も安心してこの地に住み、自然の恵みに感謝しながら食し、子供たちが地域に見守られながらすくすくと育つ状況が、将来においても続いていくことが重要です。自然と人々が共生する豊かなふるさとづくりに取り組んでまいります。

まず、豊かな自然の恵みに更に付加価値をつける特産品や新商品の開発を支援し、話題性のあるイベントの開催や効果的な情報発信により「阿久根ブランド」と「食のまち あくね」のイメージ確立を図りながら、6次産業化の推進に取り組みます。

また、安心して子供を生み、より良い環境の下で子育てが行えるように、子育て支援や教育環境の充実に取り組みます。

疾病の早期予防、早期発見のための取組を強化し、市民の健康づくりとともに、いくつになっても健やかに暮らせるように生涯スポーツ活動の推進を図ります。

さらに、市民の皆様の待望久しい市民交流センターについ

では、建設を着実に進めてまいります。そして、その機能を十分に活用しながら、文化・生涯学習活動の充実にも取り組んでまいります。

三つ目のキーワードは「その先へ」であります。

自然豊かで、暮らしやすい阿久根市が、将来においても豊かな郷土であり続けるための施策を推進してまいります。

まず、「地方創生」を図り、持続可能な地域社会を実現していくためには、若者たちが故郷に誇りを持つことが肝要です。次代を担う郷土愛にあふれた若者たちを育成するための支援や環境づくりを目指してまいります。

また、環境保全と自然エネルギーの有効利用を図り、今後安心して暮らせる地域社会づくりへ向け、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの活用促進に取り組んでまいります。

公共施設を含めたインフラ整備は、豊かな社会生活を送るためには必要不可欠なものであります。今後も国・県等の有利な補助金等を有効に活用しながら、施設の更新等を計画的に行ってまいります。同時に、「うみ・まち・にぎわい」再生整備基本計画に基づき、市街地をはじめとした魅力ある景観づくりにも取り組んでまいります。

さらに、昨今は、自然災害等への備えが今まで以上に必要



となってきました。地域ぐるみの防災訓練の実施や消防、行政組織における危機管理体制の強化を図りつつ、災害危険箇所の改良工事を行い、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

そして、豊かな故郷を確実に将来に引き継ぐためには、健全な財政状況を今後も堅持していく必要があります。本市の財政基盤は依然として脆弱であり、これから多額の予算を伴う事業が続く中であって、計画的で堅実な財政運営が今まで以上に求められています。新たな財源を探す努力を続ける一方、国・県等の有利な交付金等を最大限に活用し、高まる多種多様な行政ニーズへの的確な対応と健全財政の維持に努めてまいります。

「つながり、育み、その先へ」

これからの阿久根市の発展には、市民が互いに手と手を取り合い、努力と創意工夫の中から産業を興し、地域を守り、人を育てることが重要です。そしてその先に、明るい「希望の明日」が確実に拓けていくものと考えます。

これまでの4年間には、非常に多くの大きな困難がありました。まちづくりや市政運営に対する見解の相違から、時には厳しい御意見や御批判もいただきました。私はその度に議員の皆様や市民の方々と向き合い、率直に意見を申し上げ、

真剣な議論を通して、阿久根を思う気持ちを共有しながら、その解決に取り組んできました。この姿勢は、今後も変わることはありません。

まちづくりの基本は対話であります。市民の皆様の中に「希望の灯」が点ったことで、誰とでも分け隔てなく対話ができる環境ができあがりました。

私は、まちの明るい未来について市民の皆様と語り合う時、「希望の灯」を感じ、おのずと「笑み」がこぼれます。どんなに困難な状況が予想されようとも、一緒に汗をかく仲間が目の前にいるからです。そして、周りには、豊かな恵みをもたらす山や川、大地や海が広がり、潤いのある暮らしを支えてくれる自然があるからです。

「笑顔」は、心を豊かにします。

「笑顔」は、気持ちを前に進めます。

「笑顔」は、人と人とを近づけます。

「笑顔」は、幸せを招きます。

私は、阿久根が大好きです。市民の皆様の「笑顔」が大好きです。

「笑顔」で挨拶すれば、「笑顔」で返してくれる。当たり前前のことが自然にできる地域は、間違いなく幸せで住みたいまちになります。

私は、まさに四季折々の花々が咲きあふれ、人々の心を和ませるように、阿久根に住み、阿久根を訪れ、阿久根のことを聞いた方々が、「喜び」、「楽しさ」、「嬉しさ」を感じながら、にこやかに、おだやかに、やわらかに、「笑顔」を交わし合う「夢のまちづくり」を目指してまいります。

対立と混乱の時代は去りました。

市政の安定に努めたまちづくりの序章を経て、明るい未来創造への幕が、いよいよ上がります。

今こそ、市民、議会、職員等々、この地域の発展を願う者すべてが一丸となり、再び心新たに、真摯に努力を重ねていく時です。

幕が開かれたばかりの明るい未来へのステージで、それぞれが「笑顔」を寄せ合い、生き生きと躍動しながら、共に「夢」の実現に取り組んでまいりましょう。

そこから、お互いを尊重し合い、多様な価値観に彩られた、新たなまちづくりの歴史が始まります。

「笑顔」あふれる「夢のまちづくり」へ向けた歩みには、これからも多くの課題や試練が待ち受けていることでしょう。

しかしながら、どんな困難があっても、私は、新しい歴史の始まりの時を迎えたこの感激を胸に抱きながら、希望を失わず、未来を切り拓く信念と勇気、そして情熱をもって、市

民の皆様と一緒に，この阿久根市の発展のために全力を尽くす覚悟でございます。

何卒，市議会をはじめ，市民の皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げ，所信の表明とさせていただきます。